［プロジェクト解説］

建築アーカイブズ研修映像教材の制作（令和 3、4 年度）

田良島 哲*

Production of Visual Education Materials for Learning Archives of Architecture (2021, 2022)

TARASHIMA Satoshi

Due to the pandemic of COVID-19, it became impossible to hold a training course for archivists organized by the National Archives of Modern Architecture(NAMA) in 2021. Instead, NAMA produced two video programs of specialists' lectures streamed on the Internet. Streaming video programs can be not only an alternative way to face-to-face lectures for specialists, but also an effective measure to spread basic knowledge about archives of architecture to non-specialists who are interested in the management of materials related to architecture . NAMA has created another program in 2022 and is planning to continue this project.

キーワード：建築アーカイブズ、映像教育、新型コロナ感染症
Archives of Architecture, Visual Education, COVID-19

1. 制作のきっかけ

国立近現代建築資料館（以下「当館」という）では、令和元年度（2019）から、近現代建築資料の保存と活用に関する知見を広めるため、博物館・美術館や大学など建築資料を取り扱う機会のある機関を主な対象として、建築アーカイブズ講習会の開催を始めていた。ところが、令和2年度になって、新型コロナウィルス感染症（以下「感染症」）の流行により、開催に関する事務の執行や参加者の集合は著しく困難となった。同年度の講習会はかろうじてオンラインと対面を併用する形で10月に開催したものの、それ以降、感染症流行状況の見通しはたてづらかった。対面での開催を計画していても流行が盛んとなり、勤務や参加者の移動に制限がかかれば、短期間で大幅な内容の見直しを迫られる。また館職員の体制も感染症の影響を受けて、数少ない職員の中から講習会を開催するための人手を割く余裕に乏しい状況が続いた。

とは言え、建築資料の保存活用を標榜する国立の組織として、何らの情報発信も行えないのでは面目がない、ということで代替案となったのが、インターネットで配信する映像教材の制作である。

映像教材を制作、配信するメリットとしては、人数や場所の制限なく、教材を配布すること、技術的な工夫によって、よりわかりやすい内容や構成の教材を作れること、などがあげられる。また感染症流行の収束以降であっても、配信を継続することで、当館からの情報として普及できるので、単なる緊急時の対応以上の情報資産となることが期待された。

この点について、当館には有効な過去の経験があった。開館以来、図面や書類の収集と並行して、建築家自身をはじめとする建築関係者の肉声を収録し、保存するオーラルヒストリーの事業を蓄積していたのである。

映像・音声機器が広く普及し、誰でもがデジタル映像や音声を作成することのできるようになった現代ではあるが、正確な情報が記録され、一般に見やすく、聞きやすいデータを作成するためには、専門的な知識、技術と経験が必要である。当館では過去10年間にわたり、すぐれた映像制作者の助力を得て、高品質の映像記録を制作してきた。また令和3年度に開催された「丹下健三」展では、感染症対応もあって展示やシンポジウムなどの映像収録も行っていたので、映像による教材作成の発想は、館内で違和感なく受け入れられるものであった。幸い、講習会に見込んでいた経費を、映像制作に振り替えることも問題なく認められたので、令和3年度夏から、制作の準備にかかることになった。

2. 令和 3 年度の事業

最初の教材として世に出すものとしては、予備知識

*東京国立博物館特任研究員、前国立近現代建築資料館主任建築資料調査官

の少ない視聴者でも理解しやすい内容であることを、まず考慮した。「アーカイブズ」という言葉が、必ずしも社会的に適切な理解をされているわけではない現状から、まず（A）「アーカイブズ」の概念を解説するものと、そこから（B）「建築アーカイブズ」の概念、意義を解説するものの2本の教材が必要と考えた。

（A）については、アーカイブズ学の専門家が最適任であり、この分野の第一人者で日本アーカイブズ学会会長でもある、保坂裕興（ほさかひろおき）学習院大学大学院人文科学研究科教授にプレゼンテーション形式での講義をお願いし、快諾を得た。

（B）建築アーカイブズについての講義は、建築の専門家に依頼することも検討したが、現在のところ、建築資料を専門的に取り扱う組織は少なく、しばらくの間、建築資料に取り組むのは、もっぱら博物館や美術館の学芸員であることが予想されるので、美術館等の業務に理解のある講師が望ましいと考えられた。そこで候補として国立西洋美術館の田中正之（たなかまさゆき）館長に打診したところ、こちらも快諾をいただいた。

田中館長は、西洋美術史の専門家であるが、前任の武蔵野美術大学で芦原義信建築アーカイブの構築に携わった経験があり、企画の趣旨をご説明したところ、すぐに理解をいただいたばかりでなく、参考資料として、芦原義信建築アーカイブの所蔵資料の取材と撮影を行うことについて、武蔵野美術大学へ紹介の労をお取りいただいた。さらに、国立西洋美術館の所蔵するル・コルビュジエ設計の本館建築関係資料の撮影も許可されたのである。映像の撮影と編集に当たったのは、映画監督の青山真也氏である。

保坂教授の教材は、プレゼンテーションソフト利用の講義形式であったので、撮影場所として学習院大学の会議室を確保いただき、1月20日に下見を行った後、同月24日に撮影を行った。

芦原義信建築アーカイブを所蔵する武蔵野美術大学美術館・図書館には令和3年12月に、まず下見にうかがい、田中館長も立ち会いのもと、撮影候補とする資料の確認を行った。その上で、令和4年1月20日に図面や模型など、さまざまなタイプの資料とその保存形態についての撮影を行った。撮影に当たっては同大学の北澤智豊氏・沢田雄一氏・本岡耕平氏をはじめスタッフの方々からご助力をいただいた。

次いで、2月4日には国立西洋美術館に下見にうかがい、同8日に田中館長のプレゼンテーションを撮影するとともに、同館が所蔵する本館の設計・施工に関係する資料類の撮影を行った。資料の取り扱いや来歴については田中館長とともに、同館の福田京氏からご助力とご教示をいただいた。

撮影された素材は、編集作業を経て完成した2本の映像教材として納品された。完成した映像は、令和4年8月に文化庁のYouTubeチャンネルに登録し、公開した。それぞれ、以下のような構成となっている。

■「アーカイブズの基礎」（図1）

（講師：保坂裕興 学習院大学大学院人文科学研究科 教授）

- アーカイブズ ── 語源から
- アーカイブズ ── 定義と関連語
- アーキビストの誕生 ── 16～18世紀
- 記録のライフサイクル論
- 資料管理 ── 整理の二大原則
- まとめ ── 二大原則が意味すること

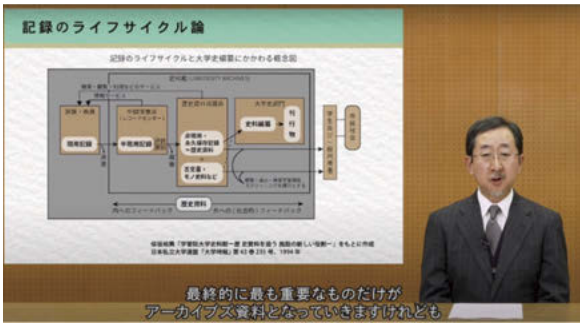

図1 「アーカイブズの基礎」
（保坂裕興氏）

■「造形芸術としての近現代建築：その資料保存の意義と実践」（図2）

（講師：田中正之 国立西洋美術館長）

- 造形芸術としてのモダニズム（近代主義）建築
  - ▷建築とは
  - ▷近代建築の5つの要点
  - ▷モダニズム（近代主義）建築の造形的特徴
- 図面等資料の持つ意味
- 建築アーカイブの実例：芦原義信建築アーカイブ（武蔵野美術大学美術館・図書館）
  - ▷アーカイブ化に当たっての作業
  - ▷諸資料の種類と分類
  - ▷おもな資料の取り扱い
  - ▷建築図面のデジタル化の理由
  - ▷図面デジタル化手法選択に当たっての検討事項
  - ▷実際に図面デジタル化した画像の仕様
- 建築資料の保存の実例：ル・コルビュジエ関連資料（国立西洋美術館）

▷建設に当たっての資料
- その後の収集資料
- 最後に

図２「造形芸術としての近現代建築：
その資料保存の意義と実践」（田中正之氏）

3. 令和４年度の事業

その後もしばらく感染症の流行が続いたことと、館内において映像教材制作の長期的な意義が認められたことの両面から、令和４年度も映像教材の制作を行うこととし、他業務とのかねあいも考慮して教材１本の制作となった。

前年度の教材が、基礎的な知識の理解を主な目的としていたので、４年度は具体的な建築資料に即した内容にしたいと考えた。館内で資料を取り扱う職員の間で、図面をはじめとする資料の損傷状態について話題となることが多く、素材である紙の損傷について、情報を集約して紹介することは意義があるのではないかということになり、紙を中心とした資料の損傷に関する教材の企画に着手した。

できるだけ資料の実態を紹介することが必要であるので、今回は講義形式ではなく、当館の所蔵する資料の実際の損傷状況を映像で示し、損傷に対してどのように対応するべきかについて、専門家のコメントを求めるという形式を選択した。そこで、各資料取り扱い担当職員から、さまざまな形態の建築資料の損傷に関する情報を求め、ある程度の類型化を行って映像で紹介するシナリオの案を準備し、これに対して、紙資料の保存を専門とする東京藝術大学大学院美術研究科の貴田啓子（きだけいこ）准教授にコメンテーターをお願いした。

前年度に続いて青山真也氏が撮影と編集を担当し、あらかじめ全体のシナリオ案を館側と協議した上で、資料自体の撮影とコメンテーターへのインタビュー撮影とを日を分けて実施した。また今回は、資料の映像に対して説明が必要となったため、ナレーターを依頼した。

令和５年２月７日、貴田准教授にも立ち会っていただき、紹介する資料の撮影を行った。撮影をした結果、シナリオの構成を多少見直し、続いて２月16日に貴田准教授のインタビューと、ナレーションの収録を行った。その後、若干資料の追加撮影を行った上で編集作業に入り、３月末に完成した映像の納品を受けて、６月に文化庁 YouTube チャンネルで公開した。全体の構成は以下のとおりである。

■建築資料の損傷と保存（図3、4）
（コメンテーター：貴田啓子 東京藝術大学大学院美術研究科 准教授）

- 建築資料に使われる紙
  ▷感光紙
  ▷和紙
- 建築資料はどのように傷むか
  ▷保存環境
  ▷光
  ▷取り扱いによる損傷
  ▷紙のしわや折れ
  ▷断裂
  ▷錆

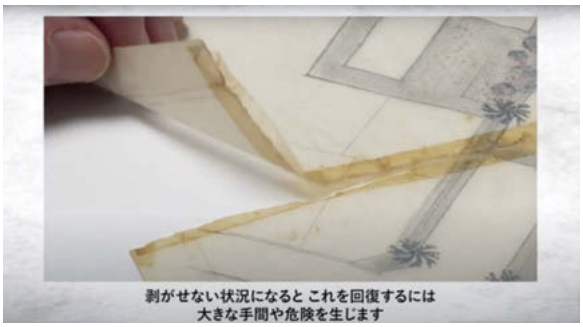

図３　建築資料の損傷と保存
（損傷状況の説明）

図４　建築資料の損傷と保存
（貴田准教授コメント）

▷補修が原因となる傷み
- 傷みの発生と拡大を防ぐには
  ▷貴田准教授コメント
- まとめ

4. 成果と留意点

感染症流行をきっかけとする、いわば追い込まれた形で始めた事業であったが、着手してみると、多面的な有効性があることを確認できた。

第一には、当初予想したように、映像教材として制作することにより、長期的に活用できる館の情報資産となったことである。今後は、対面の研修と蓄積した映像教材による個人学習とを住み分けることで、より効果的な専門的研修のプログラムを作ることができるのではないかと考えている。

第二には、令和4年度の教材制作過程で示したように、職員が館内の業務で得た知見を教材の中で映像化することで、職員自身の経験に留まらず、広くアーカイブズ業務での共有できる課題として蓄積する場となりえる点があげられる。

第三に、講師、コメンテーターや取材先と意見交換し、協力する中で、当館の活動に対して理解をいただくとともに、相手方の皆様からも、ご自分の専門について得るところがあったというお言葉をいただく機会があった点である。建築資料の保存活用は、多分野にわたる連携が必要であり、少しでも関係者の相互理解が進む場を設けるのは、望まれることである。

以下、制作に携わってみて留意すべきと考えた点を、いくつか述べておきたい。

感染症流行以後、リモート会議の利用環境が急速に発達し、この種の講演や会合の記録として、リモート会議のプラットフォームが提供する映像保存の機能を使ってデータを保存し、これを公開することが多くなっている。無論、内容の迅速で正確な記録を目的とするのであれば、これで実用には耐える。

しかし、教材として多くの人に視聴を促し、興味を持続してもらうためには、可能なかぎり映像コンテンツ全体の品質を高めるよう配慮することが望まれる。映像にせよ、音声にせよ、見づらい、聞きづらいというのでは、視聴する人が関心を維持して、知識を取得する妨げとなる。資料撮影に当たっての写角や照明、編集に際しての画像の切り替えや解説の入れ方といった細かい点の差が、円滑な理解に影響することは、2年間、撮影と編集の過程を共有して、強く感じたところである。またそのような配慮がなされた映像は、長期にわたって知的資産として役立てることができる。

当館ではオーラル・ヒストリーの作成を通じて、良質な映像を得るノウハウを継承しており、今回の事業でも活かされたものと思う。

建築資料を扱う映像を制作する場合、利用する図面や写真は著作権の保護期間内である場合が多い。当館の場合、館に寄贈された資料については著作権の譲渡を受けているため、さしつかえを生じることは少ないが、往々にして著作権者（特に写真）の許諾を必要とする場合がある。シナリオ内で利用する図や画像については、個別に確認しながら、制作を進めなければならない。

また、いずれの教材も講義、コメント、ナレーションの全体にわたって文字起こしによるテロップを入れている。さまざまな視聴環境にいる利用者の立場を考えると、不可欠だと強く感じた。

各教材URL

「アーカイブズの基礎」
https://youtu.be/7mCj4hKK8-s?feature=shared

「造形芸術としての近現代建築」
https://youtu.be/r1kx_atdcpE?feature=shared

「建築資料の損傷と保存」
https://youtu.be/NclPMavDHao?feature=shared

（2023年8月9日原稿受理）